

おおぞら 12月

本格的な冬の到来です。子ども達には嬉しい雪でもあります。雪遊びはまだ当分できませんが、積雪のため交通渋滞で幼稚園バスも遅れる事がありますので、十分に暖かい服装で通園して下さい。また、バスを待っている間、子ども達が道路近くを走ったり、遊んだりしない様子を気をつけて下さい。バス停付近での安全や住人の方に迷惑にならないよう、十分配慮して下さい。

12月の予定

- ・ 2日(金)……内科検診 (全園児)
- ・ 13日(火)～16日(金) …もちつき ※駐車場は、**前田中央会館**です。

	10:40～	11:10～
13日(火)	さくら・りんご組	しらかば組
14日(水)	くるみ・さくらんぼ組	ぼぶら・くり組
15日(木)	もも・はるにれ組	かえで組
16日(金)	いちよう・らいらく組	あかしあ組

- ・ 17日(土) …2011 おおぞら望年会&バザール——別にご案内します。

恒例の望年会とバザールを開催します。希望参加ですが、毎年350人～400人の親子が参加します。教師のバンド演奏やコーラスもあります。バザールは15店くらいの出店があり、食品や衣類、アクセサリなどが販売されています。売上はすべて出店者の収入で、幼稚園への寄付は一切ありません。また、タイムタイレストラン(給食)からも出店します。さらに9月から給食の食材を仕入れている、岩見沢の自然栽培農家も出店します。

- ・ 22日(木) …冬の集会(参加希望の方が多くて入りきれませんので、参観はできません。)
- ・ 26日(月)～1月19日(木) …冬休み

1月の予定

- ・ 20日(金) 始業日…お弁当を持ってきて下さい。
ランチ(給食)は1月24日(火)からです。

12月の参観週間

12日(月)～16日(金)です。(10:40～13:30)

冬の集会 12月22日(木)

子ども達がホールで集会を開きます。「クリスマスの本当のお話」や、世界中の子ども達の生活、食べ物の話を園長から聞きます。みんなで歌を歌ったり、教師のバンド演奏やコーラスもあります。(この日は参観はできません)子ども達にする話の中に次の様な内容があります。

「皆さんは、毎年クリスマスやお正月にはプレゼントやお年玉をもらい、ケーキなどいろいろなごちそうを食べ

ますね。でも世界中に貧しくて住む家や服や食べ物もなく、とても困っている人達が大勢います。特に身体も小さく弱い子ども達が、病気になったり死んだりしています。皆さんはとても幸せに暮らしていますが、そうでない子ども達もとても多い事を知って下さい。私のクリスマスプレゼントは、皆さんをサンタクロースにしてあげる事です。ずっと前まで、クリスマスには皆さんに私からプレゼントをあげていましたが、今は、皆さんにあげるプレゼントを買う分のお金を、食べ物もなく困っている子ども達に送っています。皆さんは自分がもらうはずだったプレゼントをもらわずに、その分のお金を貧しい子ども達にあげることになります。その子ども達にとっては、皆さんは食べ物をプレゼントしてくれたサンタクロースということです。」

園長の話に、子ども達は「それでいいよ」と答えます。今回少し意味がわからない子ども、そのうち理解できる時が来るでしょう。

当園では5年前から、子ども達へのクリスマスプレゼントを「WFP（世界食糧計画）」を通じて学校給食プログラムへ、その予算分を寄付しています。ですから子ども達への形のあるプレゼントはありません。過去5年間で145万6千円余りを寄付しました。5千円で一人の子どもに1年間、学校給食を提供できます。ご理解下さい。

クリスマスの本当のお話

毎日、世界のどこかでお祭りがおこなわれているかもしれません。でも北極に近いフィンランドの人も、南極に近いアルゼンチンの人もアメリカの人もオーストラリアの人もいっしょに、はなやかに祝うお祭りはクリスマスだけです。世界一大きなお祭りといえるかもしれません。

北ヨーロッパの冬はとても厳しいものです。夜の明けるのはおそく、日ぐれは早くやってきます。長い夜はまったくのやみ。まるで死の世界の様です。そんな日がある日もくる日もつづき、もう春なんてこないのではないかと不安になるほどです。でも冬至をさかいに、すこしずつ日が長くなり、季節は冬から春へとかわっていきます。そこでむかしから北ヨーロッパの人たちは、この日を「光の生まれる日」としてお祝いしてきました。また、この日のくるのを待って、やどりぎやひいらぎ、もみの木の枝を家の中や入口にかざりました。これらの木の枝は、いつもこい緑の葉をつけていて、健康や豊作を与えてくれる魔法の力があると信じられていたのです。日本の門松とにしていますね。クリスマスツリーは400年ほど前にドイツではじまったといわれています。

今から1600年もまえのこと、ヨーロッパの東、小アジアのミラという町に、ニコラスという男の子が生まれました。やがて成人して司教になりセント・ニコラスと呼ばれて、多くの人の尊敬をうけるようになりました。子ども達に贈り物をするというのでたいへんな人気でした。子ども達はセント・ニコラスが大好きで、何度もなんども名をよんでいるうちに、もっといいやすいサンタクロースというよび名にかわったのです。また、むちうちおじさんをつれてくることもありました。このむちうちおじさんは、こらしめの袋をかついで、かた手に木の枝のむちを持ってあらわれます。そしていい子にはごほうびをくれますが、わるい子は袋に入れてつれていっちゃうぞというのです。

イエスキリストの本当の誕生日は誰も知りません。聖書にあるイエス誕生の物語にはその日がいつだったか書かれていないのです。それなのになぜ12月25日がイエスの誕生日になったのでしょうか。キリスト教ではイエスの誕生はとても大切な意味をもっているのに、日にちがはっきりしないのでは困ります。それで、一時は1月6日、公現祭の日（イエスが3人の博士にあった日）にお祝いしていました。その後、古い暦で「光の生まれる日」といわれていた12月25日がふさわしいと考えられる様になったのです。今から1600年以上まえのことです。

1989年12月号（月刊）たくさんのふしぎ「クリスマス・クリスマス」より

2011/11/22